

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] 台湾における9年間連続株出しと地力維持方策

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東, 清二 (抄録) , Azuma, Seizi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015280

台湾における9年間連続株出しと地力 維持方策

K.H. Tang and F. W. Ho

(第13回国際糖業学会誌：618～622)

台湾における長期の株出しと地力維持方策について試験を行なった。9年連続株出し試験の結果、台湾において正常な条件下では、土壌がよく、品種が適当で、かつ適切な管理を行えば、長期の株出しが行なえることがわかった。分散分析の結果次のとおりであった。

- (1) トラッシュのマルチは収量で3%, 糖収量で4%の増加であったが、統計的に有意でなかった。
- (2) バガスのマルチングは収量で6%, 糖収量で8%の増収であったが、ともに1%で有意であった。
- (3) 緑肥(クロタリヤ)の間作は収量で7%, 糖収量で10%の減少で、ともに1%水準で有意であった。
- (4) 化学肥料を増施したものは収量で8%, 糖収量で6%の増で、1%で有意であった。
- (5) きゆう肥の施用は収量で6%, 糖収量で7%の増で、ともに1%水準で有意であった。

土壌の化学分析の結果、トラッシュおよびバガスマル

チ区はクロタリヤの間作区より有機物の含量が多かった。7.2%の磷酸を含むきゆう肥区は無ききゆう肥区よりも土壌中の有効磷酸が多かった。

(抄録 東 清 二)

トラッシュ焼却が土壌温度および含量に及ぼす影響 H. A. Fegliata, J. Leideiman and R. E. Matiussi

(第13回国際糖業学会誌：720～732, 1969)

砂壤土で行なった実験結果によると、5 cm深さの地温のトラッシュ焼却による変化は微少で最高34.5°Cであった。それは焼却温度が低くて、土壌中の微生物群を変改するに足りなかったことを示す。したがってアンモニア化成菌および硝酸化成菌の量はほとんど減少せず、それらの働きは正常に継続したわけである。土壌水分pHおよびNも影響されなかった。

有機物、全N孔隙率等は焼却地において、焼却せずにそのままにした場所に比較して多少減少がみられた。

トラッシュ焼却地では土壌構造の悪化がみられたが予想よりは少なかった。したがってトラッシュの焼却は土壌温度ができるだけ上がらないように、土壌温度の低い時刻に行なうべきであるといえる。

(抄録 東 清 二)